

笑顔づくりへの提言

関わるほどに愛着が湧く 出合いの輪も広がる

エコクラブは、ボランティア団体なのでお金はありません。でも、会員同士がそれぞれの能力や人脈を生かして公園を再生させました。よく「補助金をもたえればいいじゃないか」と言われます。でも、お金はもらわなくてもいいんです。私たちは、行政のために作業をしているわけではありません。自分たちの暮らすまち、自分たちが誇れる大好きな場所だから、自分たちで考えて、汗を流して作り上げているんです。

みんなで力を合わせれば整備できるし、それが形になっていく姿を見ていると楽しくなつてきます。関われば関わるだけ愛着も湧いてきます。私は、エコパークが自分の子どもみたいでかわいいんですよ。気が付くと、地味な草取りをしているときも笑顔になっていますね。

私は、この活動を通じて会員や港湾関係者、公園を訪れた人など、数え切れないほどの人と出会いました。青森県の人とは、何年もお互い行き来があります。団体の皆さんとも相互の交流が続いています。活動に取り組んでいなかったら、こんなにたく

自分たちが誇れる場所だから、自分たちで作る活動は楽しいし、自分自身が成長できます



1945年生まれ。大山区在住「御前崎エコクラブ」会長。静岡県地方港湾審議会委員。自然体験活動推進協議会CONEリーダー。花咲くしずおかアドバイザーなどを務める。

さんの人と出会うことはなかったでしょう。困った時には、みんなアドバイスしてくれますし、その中で、たくさんの考え方や知恵、技術も学ぶことができました。活動をしていなければ、今のようには、毎日が幸せだと思えるような人生を送れていなかったと思います。

私は、このまちに住んでいる人の中には、きつと「ここを良くしたい」とか「あの場所をきれいにしたい」と感じている人がいると思います。そんな人たちには、ぜひ気軽に一歩踏み出

してほしいです。だって、活動は良いことばかりなのですから。

いつかは子どもたちが 自慢できる場所に

13年前に始まった活動がようやく実を結び、大勢の人が訪れてくれる公園になりました。私は、作業途中でもなるべく訪れてくれた人に話しかけるよう心掛けています。エコパークの自慢をするわけではないのですが、せっかく訪れてくれたのだから公園を満喫していつてもらいたいし、ここへ来て学んだものがあつたとか、楽しかったって思いながら帰ってもらいたいんです。本来、公園というのはそういう場所であるべきだろうし、来てくれた人の心の中にエコパークの印象が残れば、また来てくれると思うのです。

いつの日かこの公園を、子どもたちが訪れてくれた人の手を引いて「こつちにはこんな花があるんだよ」と自慢をしながら案内してくれるような場所になりたいですね。そして、まちの人が他市町の人に御前崎を紹介するとき、名前を挙げてもらえるような公園となるよう、今後も楽しみながら、整備していきたいと思っています。

▶山本会長が愛用する作業道具。どれも使い込まれている。特に、ねじり鎌（通称チョンチョングワ）の刃渡りは、新品の3分の2ほどしかない。草取りに使用して、先が丸くなると、サンダーで削り、また使うということを繰り返しているうちに小さくなっていったという。山本会長の活動に対する思いがひしひしと伝わってくる。

